

目次

巻頭言・卒業研究のプロセス ——— 1

■特集

平成26年度卒業制作 ——— 2,3,4,5,6,7,8,9,10,11

ED部会見学会報告「定点観測ツアー for 2020」を終えて
——— 12,13,14,15

連載・EDeye 第10回もうひとつの住まい方推進フォーラム報告
——— 16,17

連載・世界の庭園都市 京都、日本 ——— 18,19

事務局報告 ——— 20

発行日=平成27年6月8日

発行人=山田弘和 hiyamad@yokohama-art.ac.jp

杉下哲 sugisita@dsn.t-kougei.ac.jp

編集=加藤三喜 mk@kato-design.com

小泉雅子 koizumim@tamabi.ac.jp

佐々木美貴 mikisan@blue.ocn.ne.jp

山内貴博 yamauchi@akibi.ac.jp

◆日本デザイン学会環境デザイン部会事務局
〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
芝浦工業大学芝浦キャンパス 橋田規子気付
橋田規子 hashida@shibaaura-it.ac.jp
TEL 03-6722-2717 FAX 03-6722-2641

巻頭言

卒業研究のプロセス

橋田規子（環境デザイン部会事務局・芝浦工業大学）

本号は卒業制作特集という事で、卒業制作に関して私の研究室での進め方を紹介したいと思います。大学ではエモーショナルデザイン研究室という名称を掲げ、感性デザインをものづくりに活かすことを主に研究しています。研究の特徴としては、ものの魅力について体感的な心地よさや、心理的な心地よさについて研究し、その要素を導き出すことです。最終制作物にはそれらの結果である魅力要素を活かしたものを創出することにしています。

研究の進め方としては、はじめにテーマを決めます。学生自身が問題視している事、あるいは産学連携PJのテーマの場合もありますが、これらのテーマについて文献調査やヒアリング等によって探索をします。テーマ探索は、なぜこのテーマは研究が必要なのか、どのように今後の世の中に役立つのか、を明確にするためです。このステップを取り組ませる方

が、後で迷うことなく自信を持って研究を続けることができます。次に具体的な研究範囲を決めます。実質9か月位しかないのです、あまり広い範囲にならないようにします。例えば「全体にはこのような研究範囲が考えられるが、自分はここを研究する、なぜなら～」というような提示があるとよいと考えています。テーマ探索から得た情報をもとに研究範囲をきめたら、最終提案物のターゲットを明確に設定できるようにします。誰に対して提案するかは提案物のコンセプトを明確にする上でとても重要です。その後は調査や実験を行い、提案物を魅力的にする要素を探索します。例えば家具など見た目の心理的な心地よさを測るには感性アンケートを行い、多変量解析で分析します。実際に使ったり座ったりする体感的な心地よさは、官能評価を行うと同時に、各種実験機器を使います。その結果

を数値化またはビジュアル化し、どういう場合にどういう気持ちを感じるのか、ある一定の法則や体系を見出します。最後にこれらの結果を活かして提案物を作成します。製作は自作でも外注でもどちらでも構いませんが、製作物が出来たら必ず検証をするようにしています。すなわち、検証に耐えうる製作物が必要です。製作物は実験やアンケートの結果を反映しているはずですが、こちらが意図した通り感じてもらえるのかは、検証をしてみないとわかりません。1月以降は論文40～50ページにまとめます。このように、短期間の中で様々なことを行わせるので、学生にとってはハードですが、どの学生も、1月末には達成感を感じることができていたと思います。今後は、製作物の審美性やオリジナリティーを検討する期間をより多く確保するために、プロセスを考えていきたいと思っています。

